
はしがき

尾崎紅葉

茲よぶん子とおんよべる賤の女ありけり山蔭の桜のごと仇めける姿も柴人の朝あゆうあすきがてよ詠
るのみ知る人もあくてうた幾とせれ春を過しけるをいつか都人の香をしたひきてかゝる山里よ老朽あ
んよりととく都よゆきてつま定めよかしなと様々よいひすかしければ乙女とうれしく鶯れ谷間をいづ
る心地して岩清水よ水鏡し髪ども都ぶりよ取上げ紅葉の錦打まとひ今日と都よぞいでけるあこれ風雅
男たちの好心よさそふ水莖のあと濃やかある文どもたまひね井出の下紐とくとく

籬れ菊よおたまとふ霜月の末つかた

明治十九年十一月一日

■このファイルについて

標題：はしがき

著者：尾崎紅葉

本文：我楽多文庫 第九集（活版非売本）

「硯友社系雑誌集成」 ゆまに書房

昭和六十年四月二十三日 発行

表記：原文の表記を尊重しつつ、Webでの読みやすさを考慮して、以下のように扱います。

○誤字・脱字等は訂正せず、底本通りとしました。

○本文のかなづかいは、底本通りとしました。

○旧字体は、現行の新字体にかえました。ただし、新字体にかえなかった漢字もあります。新字体がない場合は、旧字体をそのまま用いました。

○段落番号を追加しました。

○行間処理（行間200%）を行いました。

入力：今井安貴夫

ファイル作成：里実工房

公開：[里実文庫](#)

2006年4月30日